

週日の説教

金 大烈 神父 2008年8月26日(火)

《神様からいただいた善い言葉を語りましょう》

今日の第一朗読（二テサロニケ 1・1-3a、14-17）の最後に書かれている使徒パウロの言葉を一緒に見て見ましょう。「私たちの父である神が、どうか、あなたがたの心を励まし、また強め、いつも善い働きをし、善い言葉を語る者としてくださるよう」と願うものですね。一つずつ見て行きましょう。

“心を励まし : 落ち込んでいる時に私たちが求めるのは、神様が励ましてくださる事です。

“また強め : 何が正しいか分かっているのに、勇気がなくてそれを行えないことがあります。必ず果たさなければならぬという心からの響きがあったならば、神様にそれを行える勇気を求めましょう。

“いつも善い働きをし : これは難しいことです。私たちが正しい行動をとれるように恵みをお与えください、という強い望みがなければ、これもかなえられないと思います。

最後に “善い言葉を語るものとしてくださるよう : 皆様の口からは何が出されているでしょうか？ 人を癒す言葉でしょうか？ 悪口、ねたみ、憎しみ、そういった悪い感情につながる言葉になってはいないでしょうか？ 神様からいただいた恵みが口を通して出されるように、美しい言葉となるように、私たちはいつも自分の口に気をつけていないといけません。いったん口から出てしまった言葉は取り戻せません。その言葉が誰かの心に対しどのような影響を及ぼすかについては、私たちに責任があると思います。もし私の口から出た言葉が刃物となって人を刺してしまったならば、それは大変なことです。口から出される言葉が相手を癒すように、そして癒される相手によって私自身も癒されるように、そのようなことを時には考えることが大切です。

今日の福音（マタイ 23・23-26）に入ってみましょう。偽善とは、何でしょうか？ 偽善とは、本当の善ではなくて、偽にせの善です。私たちは善を行うべきです。しかし、行った善がまことの善でなければ偽善者となってしまいます。偽善者にも二つの種類があります。二つとも望ましいものではありませんが、とても大きな違いがあります。

一つは、自分自身でもうわべと中身が違うことに気づきながらもそのような姿を見せてしまう偽善者です。そういう人は、それを直せる可能性があります。自分の中の偽善に苦しんでいる人々は結構います。ある意味では、私たち全員がそうかもしれません。

二つ目は、うわべと中身が違うことに気づかない偽善者です。これは恐ろしいです。自分の口から自分の目から自分の全てから出されるものを正しいと思いこんでいます。自分がいつも正しいと思い、間違えてもすぐに正当化をさせてしまいます。

うわべと中身が違うこと、偽善者であることを意識する人は必ず救われます。神様、自分は正しくないでどうぞ直してください、と願いがあれば必ずかなえられます。問題は自分が偽善者であることに気づかない人たちです。その人たちをどのように救うべきか、私にもよくわかりません。

さて皆様、律法学者、ファリサイ派の人々はなぜイエス様から叱られたのでしょうか？ ファリサイ派という言葉は、“分離する、区別する” という意味です。分離されるのは、彼らには好ましいことでした。ふつう私たちは分離され、差別され、区別されることを嫌がります。しかし彼らは、罪ばかりの人たちと分離されて聖なるものとして認められると考え、それを喜び、自分たちをファリサイ派と名づけました。ファリサイ派や律法学者達が一番恐れていたのは、律法という掟を守れないことでした。これははっきりと罪を犯したことになります。

彼らは、何に対してもまじめな人々でした。掟どおり、マニュアルどおりに生きるから、自分は正しいと思っていました。そのように生きることは決して容易なことではないが、努力をしているのだ

からそれなりにふさわしい恵みをいただかなくてはならない、そう思っていたのが律法学者、ファリサイ派の人たちでした。

しかしイエス様は、律法のもとでの一番大切なものは何なのか、その律法が作られた理由は何なのか、を正確に話されています。律法が作られた精神は、本当に大切なもの、あなたの心を守ることであるとはっきりおっしゃっています。

しかし私たちも、人間によって作られたいろいろなものに縛られることがよくあります。人間の悪い弱さの一番代表的なものは、仲間作りです。仲間作りは、逆に言えば、仲間に入らないもの、入っていないものは自分達と全然違う、という差別につながります。そういう意識の中で生まれてくるのは縄張り意識です。

今日の福音（マタイ 23・23-26）でイエス様がおっしゃった批判的なみ言葉は、ファリサイ派や律法学者達だけに話している内容ではありません。私たちに話してくださっている内容だと思いながら、いつも自分を振り返ってみることが必要ではないかと思いました。

ありがとうございました。